

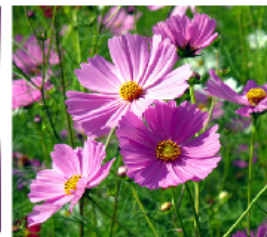
ロータリーに輝きを

FUJIEDA ROTARY CLUB
藤枝ロータリークラブ会報
例会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-35-30 TEL 054-641-3321
事務局：藤枝市青木1-11-10 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040
URL <http://www.fujieda-rotary.org/> E-mail club1972@fujieda-rotary.org

会長：池ノ谷 敏正 副会長：森下 敏顕 幹事：鈴木 舜光 副幹事：大長 昭子

第2065回

●ソング 我等の生業
●ソングリーダー 鈴木 透君



【コスモス】

写真提供：櫻井 龍太君

会長報告

池ノ谷 敏正君

皆さんこんにちは。

本日は、静岡県
舞台芸術センター
(Shizuoka
Performing Arts
Center : SPAC)



の芸術総監督 宮城 聡様をお迎えして卓話をいただきます。SPACは、日本で初めての公立の文化事業集団だそうです、一般的な舞台芸術集団の方々と、どのような違いがあるのかすら、私には判りません。

しかし、個性派俳優「伊ッセー尾形」さんや女優「高橋ひとみ」さんなどが、その稽古を見学に日本平の裾野にある「舞台芸術公園」の稽古場を訪れたといった話が、地元に住む私の耳には入ってきています。そんなことから、SPACがその世界で注目されている芸術集団であることは間違いありません。

その総監督であられる宮城様。どのようなお話を聞かせていただけるものか、とても楽しみです。

ところで先週末、来年の箱根駅伝出場を賭けた予選会が行われました。テレビでも中継されましたので、ご覧になった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

箱根駅伝といえば正月の風物詩。もうそんな時期が近づいて来たのかと、改めて思ったりしました。

ご案内のとおり箱根駅伝は、21チームで2日間に渡り、東京～箱根間を5人ずつで往復する駅伝大会です。出場チームの内、10チームは前年度のシード校。すなわち、前年度大会の上位10校。そして、残りの10チームが先日行われ

た予選会で選抜されるのです。さらに、最後の1チームは、出場が叶わなかった学校から選抜された選手による混合チームとなるわけです。

今回の予選会には、今年途中棄権で涙をのんだ山梨学院大学を始め、大正14年から連続出場を続けている中央大学、優勝経験もある順天堂大学、そして我が母校東海大学など、常連校もたくさん含まれていました。

この予選会、各校より12人ずつエントリーされ、そのうちの成績優秀者上位10名の合計タイムで競います。タイムの早い学校より10校が出場権を獲得するのですが、今年は560有余名の選手が参加し、母校のためしのぎを削りました。チーム10名の合計タイムを競うため、早い選手が1人2人いるからといって、必ずしも勝てる訳ではないのです。

これで出場チームが出揃ったわけですが、はたして、来年の駅伝本番は、どのようなドラマを私たちにを見せてくれるのでしょうか。

駅伝とは、ただ淡々と走る姿を長時間にわたり見せられるだけのもの、と当初は私も思っていました、いざ見てみますと、駆け引きがあったり、アクシデントが発生したりと、選手ですら思いもしない場面展開が現れ、その魅力にいつしかはまってしまいました。

ましてや、自分や子どもの母校が出場していたらなおさらのこと。今から、待ち遠しくなりました。

■ 幹事報告

鈴木 舜光君

- ・第 2620 地区より
RI 会長代理決定のお知らせが届いております。
森島 庸吉（モリシマ ツネヨシ）様 /
2002～2003 年度パストガバナー 船橋西 RC
- ・鈴木透会員より
RI2620 地区広報勉強会の報告が届いております。
- ・公益財団法人ロータリー米山記念奨学会より
ハイライト米山 175 号が届いております。
- ・藤枝明誠中学校・高等学校より
全国大会出場ご支援の御礼が届いております。
- ・ザ・ロータリアン誌 11 月号が届いております。

■ 出席報告

松葉 義之君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
33/42 78.57%	32/42 76.19%

(1) 欠席者（事前連絡とメイクアップをどうぞ）

○池谷君 ○江崎晴君 ○大石君 ○河井君
○杉山君 ○竹田君 ○畑君 仲田晃君
渡辺君

(2) メイクアップ者

鈴木 透君（静岡日本平・焼津南）
畑 昇君（藤枝南・焼津南）
池谷 佳典君（藤枝南・焼津南）
杉山 静一君（焼津南） 大石 英典君（藤枝南）
竹田 勲君（藤枝南）

■ スマイル B O X

松葉 義之君

- ・10月19日無事映画「じんじん」上映会を終えることができました。お力添え感謝申し上げます。

藤枝南ロータリークラブ実行委員一同

スマイル累計額 42,000円

■ ポリオプラス寄付金

ポリオ撲滅活動へのご協力有難うございます。

本日寄付金額 4,948円

寄付金累計額 52,444円

■ 外部卓話

宮城 聡様



演出家 SPAC-静岡県舞台芸術センター
芸術総監督

1959 年東京生まれ。演出家。-静岡県舞台芸術センター芸術総監督。東京大学で小田島雄志・渡 辺守章・日高八郎各師から演劇論を学び、90 年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的 テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出は国内外から高い評価を得ている。07 年 4 月 SPAC 芸術総監督に就任。自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、また、静岡の青少年に向けた新たな事業を展開し、「世界を見る窓」としての劇場づくりに力を注いでいる。代表作に『王女メディア』『マハーバーラタ』『パール・ギュント』など。04 年第 3 回朝日舞台芸術賞受賞。05 年第 2 回アサヒビール芸術賞受賞。

<SPAC での活動>（芸術総監督就任まで）

- ・1997 年 静岡県舞台芸術センターの第 1 回県民参加体験創作劇場『シンデレラ』（野外劇場）を演出。以後、2001 年まで毎年、県民参加体験創作劇場の演出を行う。
- ・1999 年 第 2 回シアター・オリムピックスで県民 100 名が参加した『忠臣蔵』（作：平田オリザ／清水港イベント広場）を演出
- ・2000 年 「Shizuoka 春の芸術祭」で『王女メディア』（出演：ク・ナウカ）を上演（野外劇場）
- ・2003 年 『トリスタンとイゾルデ』（出演：ク・ナウカ）を上演（静岡芸術劇場）
- ・2004 年 グランシップ 5 周年記念公演として県民 76 名が参加した『忠臣蔵 2004』（グランシップ大ホール）を演出
- ・2005 年 「Shizuoka 春の芸術祭」で日韓共同制作『トロイアの女』を上演（野外劇場）
- ・2006 年 9 月 県民参加体験創作劇場『東海道四谷怪談』を演出（野外劇場）
- ・2007 年 4 月 SPAC 芸術総監督に就任。

1997年にSPAC-静岡県舞台芸術センターがスタートしたことは、日本の文化行政における大きな事件でした。

それは、静岡県によって設立されたこのSPACが、自治体の「文化政策として」つくられた日本で初めての公立劇場だったからです。

SPACは“ハコ”ではありません。「THEATRE」という言葉が劇場を指すだけでなく演劇を生み出す人間集団（劇団）をも同時に指すように、日本でもかつて「〇〇座」といえば、演劇を生み出す人間集団とその拠点となる劇場の両方を不可分のものとして指していました。その当たり前の姿から遠ざかっていた日本の公立ホールのありかたから、劇団と劇場が一体となる「真の公立劇場」の姿へと舵を切ったのが静岡のSPACだったのです。いわゆる「ハコモノ行政」批判のブームより前、90年代の前半にこうしたビジョンを打ち出した静岡県と初代芸術総監督鈴木忠志さんの先見性には驚きを禁じ得ません。

日本が活気を取りもどすには地域が元気にならなければいけないと誰もが言うようになりました。しかし現実には、いまだ、地域の生んだユニークな若者が次々と首都圏へ流出し続けています。地域が元気になるには、地域におもしろい若者たちが住んでいなければなりません。そして公立劇場がからっぽのハコではなく人間集団であるということは、劇場に行けばアーティストたちがいるということです。アーティストが住んでいる地域とは、価値観が画一化されていない、多様性の許容される地域を意味します。これまでなら東京に流出してしまったユニークな発想をする若者たちも、地元で「ひととはちがったことを考える」人間たちがたくさん住んでいるという状況になれば、地域にとどまるようになるでしょう。さらには、志のある人材が流入してくることもつながるでしょう。

静岡にSPACがあるということは、静岡にけっこうおもしろくて志のある人たちが住んでいるということです。そう皆さんに認識していただけるよう、頑張っていきたいと思います。

(担当／大杉君)